



2026春闘を職場・地域から連帯して闘おう！ ⑥

わずか2日分の収入で、 全社員のベア2万円は賄える！ 2026春闘第3回団交

本部は本日、2026年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求の申し入れについての第3回団交を開催しました。今回は、ベア、定期昇給、夏季手当、各種手当などについて議論しました。

ベアについて、本部は「物価高騰は昨年以上に深刻化している。昨年のベアは、世間相場をはるかに下回った。これはリニア建設費が影響している。生活は年々苦しくなり、家の売却を考えている社員がいる。わずか2日分の収入で全社員のベア20,000円は賄える。たかが人件費は10%だ。会社の収益を見れば満額回答は可能だ」と主張しました。会社は「当社は賃金改善を実施してきた。リニアはベアとは関係ない。経営状況、物価、賃金水準などを中長期的に見て総合的に判断すべきもの」などと、賃金抑制のための言い訳に終始しました。

定期昇給について、本部は「逡減や昇格の頭打ちがある制度は、格差を拡大するばかりではなく、昇格できなかった社員の生活を破壊する制度である。格差を付ける制度は誤りだ。法的にも公平でなければならず、差別は禁止されている。全ての社員に6,000円の定期昇給と逡減制度を撤廃せよ」と主張しました。会社は「昇格意欲を持ってもらうための制度であり、賃金差別の制度ではない。法的に問題ない。努力した者は報われる制度だ」などと、社員の切実な声を無視する回答に終始しました。

夏季手当について、本部は「2026年度の業績予想では、過去最高の利益は間違いない。3.8ヶ月でも少ないくらいだ。満額回答は当然だ。専任社員には、更に10万円は当然だ」と主張しました。会社は「業績で判断するのは1つの要素で、中長期的視点に立って決定するもの」と、ベアとは全く関係のない見解を示し、一時金の性格すら否定する回答に終始しました。

議論は、全ての項目について対立しました。